

三島地域委員会 第二分科会のまとめ

「児童、生徒の登下校の安全を考える」

第二分科会では、児童、生徒の安全について、日吉小学校及び脇野町小学校のPTAをはじめ、各種様々な団体とワークショップを行い、三島中学校の生徒には通学に関するアンケートを行いました。

ワークショップやアンケートからみえてきた具体的な課題を検討、整理し、提案をまとめました。

日吉小学校では、ワークショップを契機にPTA、学校、地域の方々がいち早く行動を起こしてくれました。登下校時の安全指導への参加と親子で通学路を点検して、通学路安全マップを作成しました。

児童の登下校の安全について、大人一人一人が問題を意識し、共有することにより、さらなる活動に広がりつつあります。こうした活動を通して児童を守る様々な取り組みに対し、今後も連携していくことが必要であると考えます。

脇野町小学校では、学校区が広く、それぞれの地区で環境や状況が違うため、抱えている問題も違うという事がワークショップを通してわかりました。そのため、保護者の多くが児童の登下校の安全に対して自分達で何かしなければいけないと考えているが、それぞれの地区で環境や状況が違うが故に何から始めていいのかわからないと感じている状況が浮き彫りになりました。その中で、瓜生地区では昨年度、冬期間の登下校の見守りボランティアが立ち上がり、今年度も活動しています。こうした活動が他の地区にも広がり、学校、地域の活動として広がっていくことを望みます。

日吉小学校、脇野町小学校で見守りを継続させていくためには、一人に負担が掛からないように年代を越えた人達との連携、協力のもと、点から始まり線となる活動が必要だと考えます。

三島中学校では、通学に関するアンケートを生徒に行いました。その結果、生徒の移動手段は、自転車と徒歩が大半を占め、車で移動する大人とは違う意見が読み取れました。生徒の率直な意見を受け止め、交通弱者の立場に立って環境整備を行っていく必要があると強く考えます。

子供達の登下校の安全を意識するためには、家庭、学校はもちろんですが、地域住民、行政、コミュニティセンター、交通安全協会、民生児童委員などそれぞれが情報を共有し、連携していくことが必要です。特に子育てが終わった世代を巻き込んだ取り組みを推進することも必要になると思います。

地域住民一人一人が、児童、生徒の登下校の安全について、交通弱者の立場など様々な視点から、自分達ができることを意識することで、活動の場が広がり、地域の宝である子供達の安全も確立されていくのではないかと提案します。